

# 隊友

# 湘南支部ニュース

令和7年11月号 (No.265)

执行者

公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会

湘南支部長 中尾 剛久

茅ヶ崎市赤羽根 2661-26

Tel : 090-4897-4074

Tel.: 090 4897 4074

## ま衛治国部隊

国民と自衛隊との架け橋！

「部隊研修について」（その3）  
湘南支部長 中尾 剛久

名寄駐屯地には「第三即応機動連隊」、「第四高射特科群」ほか複数の部隊が駐屯しています。名寄市は全國でも有数の自衛隊に理解のある自治体とのことで、名寄市自らが「自衛隊のまちなよろ」を標榜しています。とは言え、名寄の自然環境は厳しく、夏の三五度から冬のマイナス二九度まで、実に六〇度の気温差があるのです。これまで老朽化した施設が悩みの種でしたが、四五年後には建替えが進む計画のことでした。名寄駐屯地も札幌などの都会からは遠いため、陸士を中心にして希望する隊員が少なく、駐屯地全体での陸士の組成比率は一〇%以下であり、幹部自衛官より少ないとのことでした。旭川の第二師団で聞いた話と合わせると、これまで陸上自衛隊、それも北海道の部隊はヒト、モノ両面で充実しているとの印象を持つていましたが、反対に人員確保に苦慮している姿が浮かび上がつてきました。

北海道の最北端、稚内には陸上自衛隊の第三〇一沿岸監視隊等、海上自衛隊の稚内基地分遣隊、航空自衛隊の第一八警戒隊等が同一敷地内に所在しています。現役時、海上自衛隊の部隊はそれぞれ任務が異なり、オペレーション上のことは原則として共有できない関係にありながら、その他については相互に支援しあって業務を遂行している姿に感銘を受けました。

けた次第です。稚内も自然環境は厳しく、冬の寒さは当然として、年間を通して強風が吹き荒れ、天候の急変が一日のうちに何度も起ります。このため、冬季に単独で行動した航空自衛官が敷地内で遭難するという痛ましい事件も過去には起っています。また、広い敷地内にはエゾシカの群れがいくつも生息しており、我々の見学の折も数十頭の群れを見ました。もう一つ特筆すべきことは、敷地内で首次だけになつたエゾシカが発見されたことがあります。エゾシカが目撃されたわけではありませんが、暫くは建物外での単独行動を禁止し、少なくとも三人以上（ヒグマは三人以上ならば攻撃してこない）ことです。五人以上ならほぼ安心との経験則？があるとのこと。で行動するような措置をとつたのです。太変に広大な敷地であり、エゾシカも多数生息することからヒグマがいても不思議ではないと思います。今年は特にヒグマの被害をよく聞きますが、稚内の各部隊の隊員たちは、気象環境だけではない、このような厳しい環境で任務を果たしていることに思いをはせ、感謝するとともに、活躍を祈りたいと思います。

「展示」は、早くも5か月が過ぎ、今月（11月）末で終了することになりますが、思いもかけないことに、ありとびる麦生（むぎょう）美術館の常設展示に移行することになります。画才も芸術的な目利きの能力も持ち合わせない「単なる運び屋」の私に、しかも、生まれて初めての展示会という望外の機会と舞台を与えていただいた奇跡に、今改めて驚きと感謝を痛感しています。

そこで、皆さん。皆さんも小学校、中学校時代を過ごした教室の広さを想い出してください（400～500名が収容できるくらいの会議室スペース）。例えば、その教室・会議室の巨大な空間で、教壇・演壇に一人ぱつんと立ち、その大きな空間と対峙する感覚です。昨年、この企画が固まり、展示会場となる教室の入り口に立った私は、何もない巨大な空間を前にして、正直、途方に呉れました。まずは、パプアニューギニアの子ども君たちの絵画を展示するにして、何をどのように展示して、観て、感じていただけるのか？ に始まり、その空間を「展示物（もの）」で埋めることばかりに意識が向きがちで、頭の中が混乱するばかりでした。そこで、これまで訪れた博物館や、美術館等の展示会の場面を思い出すとともに、改めて博物館、美術館巡りを始めました。巡るうちに気づきを感じたことがあります。

それは、「單に 何（展示物）をどう並べるか？」ではなく、かけがえのない人生の貴重な時間を割いてまで展示会場を訪れる来訪者と共に時間と共に、改めて博物館、美術館巡りを始めました。巡るうちに気づきを感じたことがあります。

を介して、自分は何を伝えたいのか？それらを観る人々に、何を主張して、感じていただけなのか？」という原点です。

「感動・感銘・感激」とは、自分が発するものではなく、展示されている作品と空間から発せられる目には見えない力・パワーだということです。この展示会では、主役である「パパアニユーギニアの子ども君たちが描いた絵画」の中に秘められたパワーを純粋に感じ取っていただきことが最優先であるべきということです。合わせて、来訪者にとっては未知なる「パパアニユーギニアの子ども君たち」の世界との接点・巡り逢いに至つたのかという「物語り」として、記憶に遺るものになれたらなお善いであろうと想い至りました。

最終的に、お手本としたのは、自身の人生上の師（ヒーロー）である「西堀榮三郎氏」そのものと、滋賀県東近江市にある「探検の殿堂」西堀榮三郎記念館のメインスペース（展示室）でした。高校2年時の創立記念の講演会は、第1次南極越冬隊長であった西堀榮三郎氏のお話をしでした。今にして思えば、わずか2時間あまりの講演で、私は魔法をかけられたのだと思います。「自分も南極に行って、ベンギンと握手してみたい！」と。実に単純極まりない想いです。けれども、それが、目に見えない遥か水平線の彼方に在る南極大陸に対する憧れとなり、海上自衛隊へ進むことになった原点でもあり、その果てに「パパアニユーギニアの子ども君たち」との巡り逢い

編集委員：深澤文晴 Tel: 090-4542-1982, Mail: f.fukazawa@yahoo.co.jp

に至った物語りの空間として伝えたいといふ考え方には至ったわけです。さらに、西堀榮三郎記念館の「核芯」は、記念館の中に移築した、西堀榮三郎氏の自宅（東京）の自室部分そのものの展示空間でした。圧倒されると同時に、そこに西堀さんが居られ、私は語り掛けておられるような錯覚を覚えるほどのパワー、オーラに満ちていました。玄関のドアを開くと、ドアに吊るされたカウベルが鳴り、自室の壁には、西堀さんが生涯愛用したピッケル、帽子などが掲げられていました。日頃使っておられた机の上には、第1次南極越冬中に綴られた分厚い日記帳のレプリカがおいとおり、自筆の記録を手にして読むことができました。また、創造力、探求心を次世代の子ども達に育むために、書棚には来訪出しの中には、子どもたちの実験教室用の教材などが備えてありました。まさに、「教室のお手本」だと直感しました。

### 平塚市総合防災訓練に参加して

支部理事役 藤澤 豊

去る10月18日（土）に平塚市総合公園で開催された「ひらつか消防・防災フェア2025」に参加しました。本フェアは市民の防火・防災啓発を図り、消防・防災行政への一層の理解と関心を高めることを目的として、平塚市が実施したイベントです。今年度は「消防・防災を身近に感じ、楽しく体験しよう」をコンセプトに、市民一人一人の「自助の意識」の向上を目指し、子どもから大人まで楽しく学べる多様なブースをはじめ、消防・警察車両の展示、はしご車・起震車の搭乗体験などが実施されました。当隊友会湘南支部のブースでは、昨年に引き続き荻原会員による液状化実験展示、中根特別会員による非常用生活用淨

化装置の展示・実演を実施し、多くの来場者に足を運んでもらいました。液状化実験は特に子供たちや母親の方々の興味を引き、液状化現象の理解を深めていただきものと思います。また、浄化装置の実演は、防災関係者の関心を集め、熱心に中根会員に質問する様子が伺えました。スタンプラリー企画による効果もあって、昨年より多くのご家族に我々のブースへ来場いただいたように思えます。引き続き、市民の方々に防災に関する興味や関心を高めて頂けるよう平塚市の活動を支援してまいります。



支部メンバー集合写真

10月25日（土）靖國神社遊就館等を研修した。（11：00～14：45）空模様は、あいにくの小雨ではあったが10名の参加を得て（会員6名・一般4名）、予定通りの内容で実施できた。九段下駅から霧雨降りしきるなか、靖國神社へ向う。まずは大鳥居（空をつくよな、大鳥居）と歌われ親しまれた第一鳥居、第二鳥居（大きさは青銅製としては日本一）、神門、中門鳥居、其々にて一礼する。拝殿にて深々と拝礼した後、右手近場に佇む莊厳な外観の遊就館に到着だ。小休止後、いよいよ二時間半を掛けた見学の開始である。

常設の展示会場は膨大多岐にわたる展示内容であり、とても1日で見終えるものではない。期間限定（～12月7日（日））の、特別展では「終戦八十年戦跡写真展」（今も残る英靈の足跡）が開催されており、

### 名所旧跡探勝ハイキング実施報告

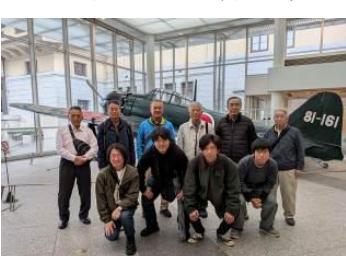
支部理事役 西村 剛

10月25日（土）靖國神社遊就館等を研修した。（11：00～14：45）空模様は、あいにくの小雨ではあったが10名の参加を得て（会員6名・一般4名）、予定通りの内容で実施できた。九段下駅から霧雨降りしきるなか、靖國神社へ向う。まずは大鳥居（空をつくよな、大鳥居）と歌われ親しまれた第一鳥居、第二鳥居（大きさは青銅製としては日本一）、神門、中門鳥居、其々にて一礼する。拝殿にて深々と拝礼した後、右手近場に佇む莊厳な外観の遊就館に入れる。

右手に佇む茶室の行雲亭、靖泉亭、洗心亭を眺めつつ、池にかかる直橋（花崗岩の一本物を使つた日本一の長さを誇る）を渡ると色鮮やかな大きな鯉が群がっている。

元宮（明治維新で斬られた志士の靈廟）、鎮靈舎（合祀されない方の慰靈舎）、憲兵の碑（戦没の憲兵隊員を慰靈顕彰）と回懇親会では各自の近況報告や、大学生達の将来の抱負などを交え、話に盛り上がり楽しい一刻を得ることが出来ました。

まずはパール博士顕彰碑（極東国際軍事裁判におけるインド代表の判事であり、戦勝国側の事後法適用に反対し、被告団全員無罪の意見書を提出）の碑文を拝読する。内苑へ足を進めると右手に靖國会館、靖國偕行文庫、靖國教場啓照館、相撲場が続き、本殿背後に造られた神池庭園に入る。



遊就館での集合写真

現在の戦跡の様子を写真で紹介されています。

### 支部会員による2026

湘南支部長

（十一月五日現在）

二時間半はなんと短いものか、集合時刻となり、玄関ホールの展示機「零戦」前に集合写真を撮る。国の為に生命を捧げた英靈の「みこころ」や足跡にふれることができ、心洗われる思いであった。

今回は縁故の大学生も4名が参加して

くれ、各所の展示物を熱心に拝観してお

り、「強く感銘を受けた、また、時間を掛けて更に研修したい」との所感を其々に述べていた。これより境内の散策に出発する。

まずはパール博士顕彰碑（極東国際軍事裁判におけるインド代表の判事であり、戦勝国側の事後法適用に反対し、被告団全員無罪の意見書を提出）の碑文を拝読する。内苑へ足を進めると右手に靖國会館、靖國偕行文庫、靖國教場啓照館、相撲場が続き、本殿背後に造られた神池庭園に入る。

右手に佇む茶室の行雲亭、靖泉亭、洗心亭を眺めつつ、池にかかる直橋（花崗岩の一本物を使つた日本一の長さを誇る）を渡ると色鮮やかな大きな鯉が群がっている。

元宮（明治維新で斬られた志士の靈廟）、鎮靈舎（合祀されない方の慰靈舎）、憲兵の碑（戦没の憲兵隊員を慰靈顕彰）と回懇親会では各自の近況報告や、大学生達の将来の抱負などを交え、話に盛り上がり楽しい一刻を得ることが出来ました。

湘南支部長（十一月五日現在）

令和7年度年会費納入者（順不同・敬称略）

喜瀬美恵子

計53名（順不同・敬称略）

湘南支部長（十一月二十日現在）

牛尾裕春、桜庭憲昭、櫻井貴裕、三澤征治、高橋友行、吉田清人、泉川博、

次年会員各位から年度会費を納入していただきます。ご協力に感謝申し上げます。

令和7年度年会費納入者（順不同・敬称略）